

議事録

平成30年度第1回島根県企業局経営計画評価委員会

日 時 平成30年7月31日（火）

14:00～16:00

場 所 島根県民会館 307会議室

○委員長

それでは、進行をさせていただきます。

昨日、川本町に行く用事があって行ったんですけども、途中、江の川の周辺等々で大変な状況であったなというふうに推測されるところでございます。

今日は、平成29年度の運営状況、取り組み実績を審議していただきますけれども、この7月豪雨のような不測の事態が今後もあるだろうということが予想されまして、なお一層、不断の経営努力をし続ける必要があるんだなというふうに思っているところでございます。

それでは、次第に従いまして会議を進めます。

議事（1）平成29年度各事業の実績について、（2）平成29年度各事業会計決算の概要について、（3）企業局経営計画、平成29年度の取り組み状況について、あわせて議事（4）今後の電気事業の財政見通し（企業局経営計画数値の見直し）について、事務局から説明をお願いいたします。

〔事務局説明〕

○委員長

ありがとうございました。

ただいまの御説明について、御意見、御質問等をお願いしたいと思います。何からでも結構でございますので、よろしく申し上げます。

○委員

いいですか。

○委員長

はい、どうぞ。

○委員

水道事業会計の決算のところですが、斐伊川の水道水が大幅に収入減になって、6,900万円減となっていますけど、その大幅減の理由をお聞かせいただきたいと思い

議事録

ます。

○企業局

私のほうから御説明いたします。

斐伊川水道につきましては、上水につきましては、単価改定を行っています。例えば松江市の場合、松江市に供給してはいますが、この卸売単価ですね、平成28年度は112.1円でしたが、これは平成29年度以降101.98円、引き下げをしたということでございまして、この引き下げ影響ということでございます。

○委員

わかりました。ありがとうございます。

○委員長

そのほか、よろしいでしょうか。

はい、どうぞ。お願いします。

○委員

資料1にある各事業の会計決算、済みません、資料1じゃなくて2になりますね、各事業会計決算の概要で、それぞれ営業収益と費用が出ていますけれども、これ、設備の更新だとか維持の費用というのは、これは減価償却費のところに当たると考えていいですね。そうすると、今後説明があるとは思いますが、リニューアル事業とかが今後出てくる、既に出てきてはいますが、そういうのはこの中に該当するのか、それともまた別の資料4に書いてあるような、財政見通しの中で反映されてくるのかということをお聞きしたい。

○企業局

リニューアルは、今後のところですか。

○委員

今までのところ、今は何でしたか、三成ですか、やられてますし、今後も幾つか出てくる。前回、たしか長期的な、今日資料持ってくればよかったんですけども、何年か後に設備が老朽化して、更新しなければいけないみたいな資料お見せいただいて、結構大変だなということの感想持ったもんですから。

○企業局

そうですね。今回、見ていただきました損益計算書のほうが、これ、いわゆる建設改良費は、減価償却費には反映されますけれども、費用としては反映されなくて、会計上

議事録

は3条会計、4条会計がありますが、建設的な4条会計のところに入っていきますので、済みません、今日はその資料、いわゆる建設工事費についてはこの表に反映をしておりません。

ただ、一応、今、きょう資料4のところで見えていただけてますけれども、資料4の2のところ、収益的収支のところでは見えてきませんが、いわゆる4条会計に対する補填という足りない部分、この補填財源、基本的にはリニューアルするときは企業債を借りる、あるいはこの3条から補填財源をしていくというようなところでやっていきます。最終的にそういうものを算定、3条、4条、全部差し引いた残りの結果がこの内部留保資金になっていくということになります。済みません、今おっしゃったようにリニューアルのところは、本日の資料ではわからない形になっています。申しわけございません。

○委員

わかりました、ありがとうございます。

○委員長

そのほか、よろしゅうございますか。

はい、どうぞ。

○委員

まずは被災お見舞いのお言葉ありがとうございました。大変うれしく思っております。質問ですが、ちょっと低いレベルの質問で申し訳ないんですけども、江の川工業団地には10社あるっておっしゃっていましたが、工業用水道を使っているのは3社となっておりますけども、これはどういうこと。入っている方は皆さん使われているということではないんですかね。

○企業局

資料何番ですか。

○委員

資料の1の2。工業用水道事業計画のところ、使用してる事業所数が3になってますね。で、団地に入っている事業さんは10社と聞いておりますけど、その10社の方はみんな工業用の水道を使ってるというわけじゃないんですか。

○企業局

そうでございます。上水のほうで事足りている企業さんもございまして、この工業用

議事録

水を使っている、大量に使われるところがコストパフォーマンスがあるものですから、そこが3社でございます。

○委員長

そのほか、ございませんでしょうか。

はい、お願いします。

○委員

資料3の宅地造成事業の資料ですが、先ほど御説明の中で、江津工業団地の分譲がほぼ現状のものは売れているということでございまして、引き続き第二期造成の準備ということが課題として掲げられています。つまり、資料の写真FプラスGの区画部分というところでしょうか。この考え方について、非常に、最近は人手不足だとか、随分、課題も指摘されるところで、一方、定年延長とかいろいろあると思うんですけども、この辺の見通しと、このFプラスG、まだほかにも予定地が残っているかと思うんですが、こういった計画をこの情勢下で進めていくというところの背景や考え方というところについて少しお聞きできればと思います。

○企業局

まず、当方のこの造成準備、第二期造成の準備を始めるに当たりまして、1点目に、これまで未造成地でございましたので、やはりこれから新しくやるところでございしますので、しっかり測量をしていくと。伐採を含めて、用地買収も残っておりまして、後ほどまた詳しく説明する予定でございしますが、そういう準備を今進めているところでございまして、第二期造成の準備をしている最中、これも後ほど説明する予定でございしますが、第一稀元素化学工業というところが1.1ヘクタールですね、この第二期造成準備中のところで取得要望がございまして、購入いただいたというところでございます。一定程度、進めておかないと、やはりタイムリーな売却ができない、タイミングを逸する可能性があるということで、それなりの準備をしていくところでございますが、そうは言ってもやみくもに造成していくというわけにも、これもリスクをまず考え、売れない在庫、デッドストックを抱えるということになりますので、そういうことを避けるために、一定程度やっぱりオーダーメイドという視点は持っておかなくちゃいけないと思って、そういうところで、採算性を考えた上での準備ということを進めていくという方針でございします。

それから、人手不足、確保の問題につきましては、江津地域の方では、高卒の方が県外

議事録

に流出している割合が非常に高いと聞いております。したがって、やはりそういったところの可能性というか、ポテンシャルということも、江津市の中で伺っております、そういった状況を睨みながら、江津市さんとも連携して、情報交換しながら進めていきたいと思っております。

○委員

わかりました。

○委員長

ありがとうございました。

そしたら、いろいろ御意見出ましたけれども、時間の制約もございますので、次の議題に入らせていただきます。

議事（5）各事業の取り組み状況について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明〕

○委員長

ありがとうございました。いろいろ丁寧に説明していただきましてありがとうございました。

それでは、今の御説明に対して、御意見、御質問等お願いいたします。

はい、どうぞ。

○委員

済みません、風力発電についてです。この風力発電ですが、大きなものなのですごく目立っていて、いつも気になっているんですけども、委員になってから特に西のほうに行きますと、今日回っているのかなどうかと気にしながら見ているような状況です。

私が委員になったのが27年度だったと思うんですけども、こういう会議があるたびに、風力発電については停止時間が長かったとか故障があったとかってということで、徐々に稼働率上がってはいるんですけども、何かとってもマイナスのイメージで、本当にこれで利益を生むことができるんだろうかって、何となく心配をしていたんですけども、皆さんの長年の経験といろいろな見直しの成果が出て、今回、黒字にまでいったということ、とても喜ばしく思っております。

先ほど、隠岐について言われたので、隠岐はどうしてできないんだというところをまた教えていただければと思います。

議事録

○企業局

予定どおりの御質問いただきましてありがとうございます。

隠岐のほうが、残念ながら目標を達成することができなかったということで、これは何点か実は要因があって、特に昨年度、数字が若干悪かったのは、昨年度実は、一昨年度になりますかね、3号機を撤去するときに御説明してあるんですが、この3号機を撤去するときに、昨年10月に撤去終了しておりますけど、昨年度のところで撤去するにはクレーンが、どうしても大型クレーンが必要だということで、この大型クレーンがせつかく隠岐に来たんだったら、1号機、2号機の悪いところもついでに直してしまおうかと。こういうふうなことを実は考えたわけです。結果として、1号機、2号機の悪いところを、部品交換を含めて、このクレーン使って、例えば羽根の修繕とか、こういうことまで含めて実は行ったもので、結果的に昨年度、それだけの費用もかかりましたし、それから運転する時間も短くなったというのが実態でございます。ですので、逆に言うと、今年度以降、我々もお金を投資した以上は、それ以上の効果がなきゃ意味がないことだということは重々承知しておりますので、今年度以降、期待しているというところでございます。

残念ながら、隠岐のほうは江津と違って、技術員が常駐はしてないもんですから、これは規模、スケールメリットの関係もあって、江津のように大きいと、まだ何人かの民間の職員を常駐させることができるんですけど、なかなか600キロの風車が2基で、今1,200キロ、こういうレベルだと、人件費のほうが高くなって、なかなかそこまで手配できないというところがありますので、高野山ほどの効果はなかなか期待できないかもしれませんが、少なくとも赤字にはしないという中で一生懸命頑張っていくという具合に考えております。

○委員長

ありがとうございました。

○委員

ありがとうございました。

○委員長

そのほか、ございませんでしょうか。

はい、どうぞ。

○委員

議事録

議題が前後してもよろしいですか。

○委員長

はい。

じゃあ、ほかの、ちょっと待ってください。

いいですよ、どうぞ。お願いします。

○委員

今日は遅参しまして、失礼しました。

最初のところを聞いてなかったのも、また議論をまぜ返すようで恐縮なんですけども、事業会計決算の概要のところ水道事業会計なんですけども、この決算の表を見ますと、平成29年度は減収減益という決算の姿です。それで、私が気にしているのは、特に給水収益の減収ですね。ざっと5,700万円ぐらい減っているんですけども、これは、受水団体の人口が減っているのも、当然その影響受けています。恐らくこれからは人口減は進んでいくわけなので、恐らく給水収益は減ることはあっても増えることはないかと先細りが予想されるんですが、それに加えて、特に大口需要者の間で地下水を使っている影響もあると思っていまして、地下水を使えば、上水道を使う必要はないので、こういった大口需要者を中心に、地下水を使うところが増えれば、ますます給水収益が減っていくと。一方で、人口減が進むし、大口需要者を中心に地下水を使っていけば、それだけ給水収益というのが減っていくという影響が見込まれるんですけども、地下水の使用量、なかなかこれを数量的に把握するのは困難だと思うんですが、感覚的にざっとどれぐらい地下水を使っている、それが給水収益の減少に影響しているのか、そこら辺のざっくりした数字というか、そうですね、数字ですね。ボリューム感、そこら辺はどうでしょうか。

○企業局

まず、水道の契約使用量につきましては、例えば松江市の場合、斐伊川につきましては、水道使用量が、実は平成26年度が、これは738万3,000立米だったものが、29年度は766万2,000立米に増加しております。例えば松江市だけに限っていいますと、飯梨川を申し上げますと、同じところで見ますと、松江市の場合817万6,000立米から若干減りまして、平成29年度では792万9,000立米。これ合算しますと、松江市の場合、飯梨川と斐伊川の受水量は、平成26年度は合算しましたら1,555万9,000立米が、平成29年度は1,559万1,000

議事録

立米、ほぼ横ばいという状況でございますが、松江市におきましては、当方の受水状況が大きく減っている傾向はございませんが、先々、人口減少ということが進むのは間違いございませんので、これにつきましては、今後の松江市さんの推計ですね、そこから辺のデータをいただきながら、こちらも考えていくことになろうと思います。

先ほど、減収の話でございますけれども、この前の他の委員さんに質問いただいたんですが、減収の理由としましては、例えば松江市で斐伊川についての単価ですけども、平成28年度まで松江市が112.1円であったのが、平成29年度以降101.98円。これまで実績を見て、単価落としました。これが減収の理由でございます。減収の理由はそういうことでございますが、お尋ねになっておられます大口需要家の地下水道の利用状況といいますか、水道単価どうかということなんですが、これにつきましては、企業局のほうでは数字は特に持っておりません。そういう状況でございます。

○委員長

ありがとうございました。

そのほか、この際ですので、今後の企業局業務運営全般にわたることでも結構ですので、御意見等ございましたらお願いします。

はい、どうぞ。

○委員

済みません。初めてで何を質問していいかもよくわからないんですけども、先ほど風力発電の制御システムの改良をされたことによって、こんなに数値にすばらしい結果があらわれているというのはすごいなと思って、素人にもわかるんですけども、制御システムの改良をこういうふうにしたらどうだとかいう、そういうことに対してはこの企業局にエンジニアさんがおられるんですかね。それか、その東京から来られた人と何か企業局さんのほうで相談されてそういうふうになったというか。

○企業局

エンジニアというとあれかもしれませんけど、やっぱりこの風力の仕組み、システム自体に長けている人間は何人かおまして、もちろん我々だけの力でどうのこうのじゃなくて、あくまでメーカーですね、メンテナンス業者も含めて、一緒になって、どうすれば、簡単に言えば結局壊れないのか、壊れないようにできる方法はないのか。先ほどもお話ししたように、いろんな方法を実は試したんです。それらも、メンテナンス業者もメーカーも一緒になってやってきました。彼らのほうからはこれがいい、

議事録

これがいいで、我々もじゃあやってみよう、やってみよう。だけど、効果が出なかったというのが実態でして、ある意味、運がよかったというのはあるかもしれないんですけどね。ただ、何もしなかったらやっぱり何も変わらないわけで、これまでいろいろこの評価委員会も含めて、我々いろんなお叱りを受けていますので、特にこの風力に関してはですね。ですので、いろんなことにやっぱりチャレンジして行って、だめだから諦めるんじゃないくて、だめだったら、どこがだめだとかいうことを絶えず考えながら、絶えず高みを目指すということが必要なんだろうと思ってます。また、要は一緒にみんなで頑張るということをございます。

○委員

ありがとうございます。何かすごい企業家魂を本当に感じて、見習わせてもらわんといけんなと思って。

もう一つ、似たような質問なんですけど、大規模な水力発電のリニューアルということで、すごいお金をかけて、これやっていただかなきゃいけないんですが、これはもちろん入札して、この事業者さんは決まっているんだと思うんですけど、これって県内企業ではないですよ。

○企業局

今回の発電所でいいますと、先ほどちょっと写真を見ていただきましたように、実際の発電をする機械、水車発電機がございますし、それから途中の鉄管だとか、それと導水路とかいろいろございまして、例えばこの水車発電機というものになりますと、なかなか県内業者さんではなくて、やはりメーカー的などが対象となって、競争入札をして、業者を決めております。それと、鉄管とか導水路につきましては、この工事の規模によって、県外業者さんも含めて競争入札をしたものがありますし、県内だけで競争入札で決めさせていただいたところもあります。そういった対象工事の種類によって、規模によって変えております。

○委員

ありがとうございました。県内の事業者さんにもお金が回っていいなとちょっと思ったもんですから。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございました。

大体よろしゅうございますか。活発な意見をどうもありがとうございました。時間の制

議事録

約もございますので、これで終わりたいと思うんですが、今の御質問にもありました風力発電については、まさに歴代の施設課長さんがいつも頭を悩ましながら話ししていただきまして、こういった自然を相手にやっていく、そしてまた一方で発電所のリニューアルなど、こういったものを非常に計画的に慎重に進められているっていうことが今日の説明でよくわかりましたし、確実な経営をされているなということがわかりました。

それから、一方では、工業団地の分譲、それから石見空港の太陽光発電、あるいは小水力発電も3つ超えられたということで、今の委員さんの発言とも関連する、やはり民間企業の色濃い部分の、攻める企業局といいますか、そういった部分も何か感じられるところがございます。今後も工業用水の売水とか、あるいは工業団地、まだ江津も残っていますので、新規顧客の開拓にもぜひとも注力していただきたいというふうに思っているところがございます。

そろそろ時間も参りましたので、本日の議事を終了したいと思います。委員の皆様方には議事進行に御協力いただき、大変ありがとうございました。